

今日のみことば

□ 10月8日(日) 出エジプト 38章

私たちは神礼拝のために、どれだけ神に御心を知り、従おうとしているか。旧約時代は細かく規定されていた。新約時代はそのような外形ではなく、内的規定があるはずです。

□ 10月9日(月) 出エジプト 39章

ここには聖所の務めのために祭服の規定と工事の完成が記されている。幕屋の建設に当たって重要なことは「主が命じられた通りに作った」と言うこと。主の命に従う信仰です。

□ 10月10日(火) 出エジプト 40章

「主が命じられたとおりに」すべては完成した。神のみ心に服従するということが、人生において最も大事で、人生成功の秘訣である。

□ 10月11日(水) レビ記 1章

神はシナイ山で律法を与えられ、民のささげ物についても示された。全焼のいけにえについて、犠牲の動物の全体が完全に焼かれる唯一のささげもの。ささげる者の献身のしるしである

□ 10月12日(木) レビ記 2章

穀物のささげ物は、小麦粉、油、乳香の三要素からなっており、しばしば、全焼のいけにえ、及び和解のいけにえに添えてささげられた。

□ 10月13日(金) レビ記 3章

和解のいけにえには、感謝、誓願、自発の三種がある。ささげる者と神との交わりを再び確立するためのものです。感謝のささげ物のこともあった。

□ 10月14日(土) レビ記 4章

罪のためのささげ物。赦しを得るためのささげ物。これと罪過のためのいけにえとの関係は明らかではない。罪のためのいけにえは神に対する違反です。

ろ ぼ No. 1836
2017年 10月 8日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ 1:14

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父のもとから来た独り子としての栄光であって、恵みと真理に

私たちはイエス・キリストという方を知っています。本当に知っていますか。本当のことは何も知らないではありませんか。ヨハネは「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」とイエスを私たちに紹介しました。しっかりこの言葉を聞いて、私たちはイエス・キリストと言うお方を知るので。そしてこのお方を世界中に紹介するのです。それが私たちの、クリスチャンの務めなのです。

ヨハネが「初めに」と言った言葉は、聖書の冒頭の言葉「初めに神は天と地とを創造された」(創世記1:1)と同じです。宇宙万物が存在しないその前から言うことです。人はもちろんのこと、獣も鳥も魚も、星雲さえもいまだ存在

しない、光さえいまだ暗黒の中に輝いていない時に、言はずでに神と共にあったと言うことです。

それでは「言」とは何ですか。ギリシャ言語では「ロゴス」です。それは思想の表題です。見えざる霊が外に現れたもので言語は音をもってする思想の表現ですが、音だけではなく、てまね、絵画、音楽などをもって外に表すことが出来ます。そのようにして心の中の隠れた思想を外に表す手段を称して「ことば」と言うのではありませんか。そして神にも「ことば」があります。神の深淵限りない思想を表すためには、聖書と自然では表しきれません。それ以上のものがなくてはなりません。

した。神は自己を表すために、自己に似た、しかも自己を離れた、ある実在者を必要とされました。すなわち聖書に言う「神の栄光の輝きであり、神の本質の姿」(ヘブ11:3)でなくてはならず、「わたしを見た者は、父を見たのである」(ヨハ14:9)と言いだす方であればなりません。

ヨハネはこの聖書の冒頭から、イエスに視線を移しているのです。「言」は神と同一であったとは言わない。彼は、イエスは精神においても、心においても、また存在においても、神と全く完全に同じであり、私たちがイエスのうちに、完全に、神はどのようなお方であるかを見るのである、と言うのです。

そこから私たちの信仰は始まるのです。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父のもとから来た独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちて」(ヨハ1:14) いました。そこに私たちの目が釘付けされてイエスを見つめるとき、私たちはしっかりと私たちの主なるお方を知るのです。ムーディが有名な伝道者になる前の若いころ、ヘンリー・ムーアハウスがヨハネ伝3章16節を一週間にわたって説くのを聞きました。その結果ムーディは、神の愛の偉大さについて本当に理解したと言います。「その時まで私は、神がそれほどまでに私たちを愛してくださっていることを知りませんでした。心が砕けて私は涙を抑えることが出来ませんでした。私は非常に感動しました。この世の中で何よりも優れているのは、たしかに愛なのです」といいました。あなたはイエスを誰、と告白するのですか。「イエスは、わたしたちのために命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちは兄弟のために命を捨てるべきです」(ヨハネ3:16) と言うのです。

次週の聖書・説教	マルコ1:40-42	人々は助けが必要
----------	------------	----------

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ヨブ記 32:1-14 神の息吹をいただいて

ヨブと三人の友人との議論は膠着状態でした。互いに「自分の方が正しい。間違っているのはあなただ」と一歩も譲らない彼らの間に、いままで年長者を遠慮していたエリフが「黙っておいれない」と声を上げました。

エリフはヨブが神を正しいとしないので激しく怒りを燃やした(2) その友人たちがヨブに対抗できないのを見てまた怒りを燃やしました(5)。 彼にはそうして批判に加えて、論争解決のある意見を持っていました。エリフは、神は愛する者をむち打たれるのだと思っていました。神がヨブを取り扱われる方法に誤りはないことを弁証しようとしてしました。エリフが「人の中には霊があり、悟りを与えるのは全能者の息吹なのだ」というところに私たちの立つべき場所がある。そこで謙虚に主の前に立ち主の言葉を聞く。あくまでも私たちが前に出ることはありません。



Read God's Word.